

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：11501	
研究種目：基盤研究（C）	
研究期間：2009～2011	
課題番号：21592790	
研究課題名（和文）	心身症・神経症児と家族に対するケアモデルの開発とその検証に関する研究
研究課題名（英文）	Study on the development of a nursing model of caring for children and family with the neuroses or psychosomatic disorders.
研究代表者	
佐藤 幸子（SATO YUKIKO）	
山形大学・医学部・教授	
研究者番号：30299789	

研究成果の概要（和文）：心身症・神経症児と家族のケアに関する看護師のニーズ調査を実施した。また、心身症・神経症児の不応行動と関連因子および看護介入方法に関する調査結果をもとに、文献検討の結果を参考にしながら、心身症・神経症児と家族に対するケアモデルを作成した。加えて、診断指標と関連因子をもとに、アセスメントから看護介入までの一貫した記録用紙を整備した。さらに、本モデルを活用して事例のアセスメント及び看護介入を実施し、有用性について検討した。

研究成果の概要（英文）：First, We investigated nurse's needs for child mental care. Second, we identified related factors and effective nursing interventions for maladaptive behaviors of children with neuroses or psychosomatic disorders, and we applied to the development of a nursing model for caring for children with the neuroses or psychosomatic disorders. Furthermore, we made report forms for assessment of children with neuroses or psychosomatic disorders.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 21 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
平成 22 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
平成 23 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：生涯発達看護学

科研費の分科・細目：小児看護学

キーワード：

1. 研究開始当初の背景

文部科学省の調べによると小中学校の生徒の数はこの10年間に200万人以上減少しているにもかかわらず、30日以上欠席している不登校の生徒は、10年間に4

万5千人以上増加している。不登校が継続している理由で最も多いのは不安など情緒的混乱であり、子どものこころの問題が浮き彫りになってきている。沖らは全国の医療機関や学校を対象に、子ども

の心身症・神経症等の実態調査を行い、心の健康問題を抱えている子どもは小学校でおよそ12.9%、中学校においてもおよそ14.6%存在していることを明らかにしている。また、小柳は市中病院における小児心療科の現状から子どもの心の問題に幅広く対応できる専門家の必要性を述べており、看護においてもケアモデルの構築が急務である。心身症・神経症児の研究においては、養育態度、家族機能や自尊心、不安傾向などの関連要因の検討が行われてきているが、系統的な看護アセスメントに活用できるまでには統合されていない。また、介入方法に関しては、我々研究グループが大学病院小児科外来に「小児看護外来」を開設し、学会等で事例報告として既に蓄積してきたデータがあり、今後ケアモデルとして統合していくことが可能である。国外においては、DVや被虐待児のケアシステムなどに関する研究・実践が進んでいるが、日本とは家族や社会的背景が異なるため、日本独自のケアモデルが必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は心身症・神経症児と家族に対するケアモデルを作成し、その有用性を検証することである。これを実現するために、以下の目標を掲げる。

(1) 心身症・神経症児と家族のケアモデルに関するニーズ調査

心身症・神経症児とその家族がどのような支援や体制を求めているのか、また、病院に勤務する看護職者のニーズについて把握する。

(2) 心身症・神経症児と家族のケアモデルの作成

①心身症・神経症児の看護上の問題と関連因子の分析

心身症・神経症児の不適応行動の分析結果から得られた概念をもとに、看護上の問題とその関連因子を明確化する。

②心身症・神経症児の看護アセスメントモデルの開発

生理的側面、心理的側面、社会的側面を包含し、かつ看護上の問題やその関連因子となるものをアセスメントできるアセスメントシートを作成しアセスメントモデルを開発する。

③看護問題に対する介入指針の作成

理論背景と実践に基づき、心身症・神経症児と家族の看護上の問題に対する介入指針を作成し、他職種との連携も踏まえたケアモデルを作成する。

(3) 心身症・神経症児と家族のケアモデルの活用と評価

作成したケアモデルを看護実践の場で活用して、その有用性を評価する。

3. 研究の方法

(1) 研究協力者の整備

これまで山形大学の小児専門看護師（CNS）のための実習で心身症・神経症児の看護に当たった修了生約20名に対し、研究協力者として募集を募る。研究分担者と研究協力者の合同会議を開催する。

(2) 心身症・神経症児と家族のケアモデルに関するニーズ調査

心身症・神経症児とその家族がどのような支援や体制を求めているのか、また、病院に勤務する看護職者のニーズについて、0質問紙調査により把握する。

(3) 心身症・神経症児と家族のケアモデルの作成

先行研究において明らかにされた不適応行動の分析結果から得られた成果に、これまで発表してきた数十例に及ぶ看護介入実践報告の分析を加え、心身症・神経症児と

家族の看護実践の実績を持つ研究分担者と研究協力者で審議を重ね、看護診断に相当する看護上の問題とその関連因子を分析、明確化する。また、心身症・神経症児の看護上の問題とその関連因子を明確化する。

4. 研究成果

(1) 平成 22 年 1 月に、心身症・神経症児の家族および病院に勤務する看護師を対象にアンケート調査を実施し、心身症・神経症児と家族の心のケアに関するニーズ調査を実施した。その結果、情緒不安定になっており、心のケアが必要と思った子どものケースを経験しているものは 58.1% おり、その 6 割以上が心のケアを必要と感じていた。また、約 96% のものがコンサルテーションを受ける場所の必要性を感じており、約 70% のものが、専門的な心のケアをしてくれる機関が身近にないと答えていた。これらの結果により、専門的な子どもの心のケアやコンサルテーションを行う機関の必要性が示唆された。

(2) 平成 22 年 4 月にケアモデル作成のための検討会を実施した。検討会では平成 21 年度に実施した調査結果をもとに心身症・神経症児の不応行動の関連因子を明確化した。それを日本看護科学学会で公表した。また、関連因子と介入方法に関する調査結果をもとに、文献検討結果を参考にしながら、妥当な介入方法を抽出・整理した。これらの過程から、ケアモデルの原案を作成し、看護診断時に使用するためのアセスメントシートを作成した。平成 23 年度に、心身症・神経症児の不応行動と関連因子・介入方法に関する調査結果をもとに、文献検討結果を参考にしながら、妥当な介入方法を抽出・整理した。これらの過程から、ケアモデルを作成し、看護診断時に使用するためのアセスメントシートを作成し

た。その後、不応行動の看護成果、看護介入に基づき、実際の症例に適用できるのか検討を重ね、妥当性を検証した。

表 1 【他者への信頼感の不足】の定義と具体例および関連因子

【他者への信頼感の不足】	
診断 指標	<input type="checkbox"/> 人を信じられないと言葉に出して言う（行動で示す） <input type="checkbox"/> 裏切られるのが怖いと言葉に出して言う（行動で示す） <input type="checkbox"/> 試し行動をとる <input type="checkbox"/> 人の言うことをなかなか信じようとしない <input type="checkbox"/> 関係形成が進むと混乱する
関連 因子	<input type="checkbox"/> 親子関係（親の不安が高い、非難、不満、厳格） <input type="checkbox"/> 虐待・DV/いじめ <input type="checkbox"/> 受け入れてもらえなかった体験 <input type="checkbox"/> 裏切られた体験 <input type="checkbox"/> 他の子どもとの行動様式の大きな違い <input type="checkbox"/> 発達障害 <input type="checkbox"/> 社会不安障害
介入	<input type="checkbox"/> 定期的な枠組みの中で、継続的にともに時間を過ごす(週に 1 回 50 分) <input type="checkbox"/> いつも同じような態度で、拒否しない(危ないときは声をかける) <input type="checkbox"/> 自由に遊ぶ <input type="checkbox"/> 自分のために用意された場所と時間を提供して（居場所）共に過ごす <input type="checkbox"/> 対応の仕方を親に教える <input type="checkbox"/> 対応の仕方について保育所、幼稚園、学校の協力を得る(必要時)

表 2 【自尊心の未発達】の定義と具体例および関連因子

【自尊心の未発達】	
診断 指標	<input type="checkbox"/> ほめるとそれを否定する言葉を発する <input type="checkbox"/> 何か起きると自分のせいだと思う <input type="checkbox"/> 自分の価値を認められない言葉を言う

<p>関連因子</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 親子関係（拒否・干渉） <input type="checkbox"/> 親が求めるレベルが高い <input type="checkbox"/> きょうだいとの比較 <input type="checkbox"/> 学業が難しくなる時期 <input type="checkbox"/> 親の不安が高い <input type="checkbox"/> 家族機能が低い <input type="checkbox"/> 虐待（いつも怒られたり、非難されている） <input type="checkbox"/> DV・いじめ 	<ul style="list-style-type: none"> び) <input type="checkbox"/> 遊びの中ですべてを行け入れ、拒否しない <input type="checkbox"/> 自分を表現したら認める <input type="checkbox"/> 表現に困っているときは具体的な表現方法を教える <input type="checkbox"/> 親だけでなく子どもの考えを確認する <input type="checkbox"/> 親に接し方を見せる
<p>介入</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ほめる <input type="checkbox"/> みとめる <input type="checkbox"/> 共感する <input type="checkbox"/> 親に対応の仕方を教える（ペアレントトレーニング） <input type="checkbox"/> 対応の仕方（ほめ方）について保育所、幼稚園、学校の協力を得る(必要時) 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 親に暴力ではない方法で冷静に対処してもらう <input type="checkbox"/> 親に対応の仕方を親に教える <input type="checkbox"/> 対応の仕方について保育所、幼稚園、学校の協力を得る(必要時)
<p>表3 【自己表現の未熟】の定義と具体例および関連因子と介入</p>	<p>【情動調整の未熟】</p>
<p>【自己表現の未熟】</p>	<p>診断</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自己主張しない <input type="checkbox"/> ネガティブな行動で表現する <input type="checkbox"/> いつも相手に合わせた行動をとる <input type="checkbox"/> いやなことを拒否できない <input type="checkbox"/> 高社会的行動が極端に多い <input type="checkbox"/> 喜怒哀楽を表現しない <input type="checkbox"/> 身体化する <input type="checkbox"/> 行動化する：より未熟な 	<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 少しのことでイライラする <input type="checkbox"/> 言葉が荒い <input type="checkbox"/> 自分の意志が通らないと感情的になる <input type="checkbox"/> 年下の子どもや動物をいじめる <input type="checkbox"/> 人に八つ当たりをする <input type="checkbox"/> 物に当たる
<p>関連因子</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 親子関係（代弁しすぎる、非難、指示的） <input type="checkbox"/> 放任（虐待） <input type="checkbox"/> 表現すると否定される <input type="checkbox"/> 親も言語表現が少ない <input type="checkbox"/> 普段から話を聞いてもらえない <input type="checkbox"/> 家族機能が低い（夫婦関係、祖父母との関係） <input type="checkbox"/>アレキシサイミア <input type="checkbox"/> 共感不全 	<p>関連因子</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 世話・愛着不足（反応性愛着障害） <input type="checkbox"/> 批判的 <input type="checkbox"/> 指示や押さえつけが多い <input type="checkbox"/> 気質 <input type="checkbox"/> 発達障害 <input type="checkbox"/> 虐待・DV/いじめ <input type="checkbox"/> 家族機能が低い <input type="checkbox"/> 反抗挑戦性障害 <input type="checkbox"/> 行為障害
<p>介入</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 言葉以外の方法で表現を促す(遊 	<p>介入</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自由に自分の思うとおりに遊ぶ <input type="checkbox"/> 過干渉や押さえつけを改善する <input type="checkbox"/> クールダウンの仕方を教える <input type="checkbox"/> ホールディングする

表5 【対人関係の障害】の定義と具体例
および関連因子と介入

【対人関係の障害】	
診断	<input type="checkbox"/> 同級生と会うと隠れる
指標	<input type="checkbox"/> 人に会うのが嫌で出かけない <input type="checkbox"/> 人がいない時間に出かける <input type="checkbox"/> 友達と遊べない
関連因子	<input type="checkbox"/> 比較され評価されている <input type="checkbox"/> きょうだいとの比較 <input type="checkbox"/> 完璧を求められる <input type="checkbox"/> 10歳（思春期）以上 <input type="checkbox"/> 双方向的な交流が少ない（メールの多用） <input type="checkbox"/> 親子関係（厳格、非難） <input type="checkbox"/> 親の不安が高い <input type="checkbox"/> 家族機能が低い
介入	<input type="checkbox"/> 双方向でコミュニケーションがとれるようにする <input type="checkbox"/> 2人で何かやりながら(遊びなど)時間を過ごす <input type="checkbox"/> 同じものを見て時間を過ごす <input type="checkbox"/> ほめたり、認める。リアクションする。 <input type="checkbox"/> 遊びの中で自分が優位に立つのを許す。 <input type="checkbox"/> 自分の体験したものを努力して表現する <input type="checkbox"/> スキンシップ <input type="checkbox"/> 小学生のうちには親に協力してもらおう

表6 【社会参加の障害】の定義と具体例
および関連因子と介入

【社会参加の障害】	
診断	<input type="checkbox"/> 修学旅行、運動会、野外学習など参加できない
指標	<input type="checkbox"/> 具合が悪くて学校に行けない <input type="checkbox"/> 行きたい、行かなければと思っているが身体が反応しない

	<input type="checkbox"/> 行くと疲れて行けなくなる
関連因子	<input type="checkbox"/> 学校ストレス（ナイフを持ってくる子、携帯を持ってくる子、勉強ばっかりの子） <input type="checkbox"/> 受験戦争 <input type="checkbox"/> 親が学校の先生を批判する <input type="checkbox"/> 長期休暇 <input type="checkbox"/> 対人関係の障害 <input type="checkbox"/> 自尊心の未発達 <input type="checkbox"/> 他者への信頼の不足 <input type="checkbox"/> 情動調整の未熟 <input type="checkbox"/> 母親（家族）との分離不安 <input type="checkbox"/> 社会不安障害 <input type="checkbox"/> 適応障害 <input type="checkbox"/> 発達障害
介入	<input type="checkbox"/> 学校内に居場所を作る <input type="checkbox"/> 学校ストレス調整する <input type="checkbox"/> 対人関係の障害、自尊心の未発達、他者への信頼の不足、情動調整の未熟に準じる

表7 【生活パターンの乱れ】の定義と具体例
および関連因子と介入

【生活パターンの乱れ】	
診断	<input type="checkbox"/> 夜遅くまでゲームをしている。
指標	<input type="checkbox"/> 夜眠れない <input type="checkbox"/> 深夜番組を見ている <input type="checkbox"/> 朝遅く起きる <input type="checkbox"/> 日中眠そうにふらふらしている
関連因子	<input type="checkbox"/> 拒否的・放任 <input type="checkbox"/> メール・パソコン <input type="checkbox"/> ゲーム <input type="checkbox"/> 学校に行きたくない <input type="checkbox"/> 服薬 <input type="checkbox"/> 束縛されている <input type="checkbox"/> 社会参加の障害 <input type="checkbox"/> 運動不足 <input type="checkbox"/> 睡眠障害 <input type="checkbox"/> 社会不安障害

- 介入 モニタリングする
 朝起こす
 朝食を食べるようにする
 規則を作る
 お手伝いをさせる
 楽しみを見つける
 社会参加の障害に準じる

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保 :
子どもの心のケアに関する看護師のニ
ーズ調査. 北日本看護学会誌. 2011 ; 13
(2) : 17-23 (査読有)

[学会発表] (計7件)

- ① 佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保 :
子どもの心のケアに関する看護師のニ
ーズ調査. 北日本看護学会, 山形(山形大
学) ; 2010年8月7日
- ② 佐藤志保, 佐藤幸子 : 教室で学習困難が
続いていた患児に対する看護介入の検討.
第14回北日本看護学会学術集会, 山形(山
形大学) ; 2010年8月7日
- ③ 佐藤幸子, 塩飽仁, 遠藤芳子, 佐藤志保 :
心身症・神経症児の不応行動とその関連
因子の検討. 日本看護科学学会, 札幌(札
幌コンベンションセンター) ; 2010年12月
3日
- ④ Yukiko Sato, Shiho Sato, Eiko Suzuki,
Miyuki Saito: Example of casework in
which intervention with the mother
improved school non-attendance. 6th
International Conference on Social Work
in Health and Mental Health, Ireland
(Dublin) ; 2nd July 2010.
- ⑤ Shiho Sato, Yukiko Sato, Eiko Suzuki,
Miyuki Saito: Case study : A case study:

Nursing intervention for a child who
repeats school refusal due to lower
self-esteem. 6th International
Conference on Social Work in Health and
Mental Health, Ireland (Dublin) ; 2nd July
2010.

⑥ 三上千佳子, 佐藤幸子, 佐藤志保 : 父
親との関係性から身体症状の増悪を繰り
返す子どもと母親への看護介入. 北日本看
護学会, 仙台(東北大学) ; 2009年8月21
日

⑦ 三上千佳子, 佐藤幸子, 佐藤志保 : 教
室登校に至った患児に対する自尊心を高
める看護介入の検討. 北日本看護学会, 仙
台(東北大学) ; 2009年8月21日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 幸子 (SATO YUKIKO)
山形大学・医学部・教授
研究者番号 : 30299789

(2) 研究分担者

塩飽 仁 (SHIWAKU HITOSHI)
東北大学・医学系研究科・教授
研究者番号 : 50250808

(3) 研究分担者

遠藤 芳子 (ENDO YOSHIKO)
宮城大学・看護学部・教授
研究者番号 : 20299788

(4) 佐藤 志保 (SATO SHIHO)

山形大学・医学部・助教
研究者番号 : 00512617